

7月所感

お湯は熱い水

狭山市立教育センター

所長 澤田 剛

英語教育最先端の狭山市ですので、こんな話題を…

「お湯」は、英語では「hot water」になります。では「hot water」を直訳すると、どうなるでしょう。「熱い水」ですね。つまり、英語話者にとっては「お湯」はただ「温度が上がった水」でしかないのです。しかし、日本人にとって「湯」と「水」には、単に温度の高い低いではない違いがあるようです。「お湯」は、「お風呂」や「温泉」(＝いでゆ)を意味しますし、「湯ざまし」「ぬるま湯」等の言葉がある通り、一度沸かした「水」は、冷めても「お湯」です。風呂が沸いたと思い足を入れたら冷たかった。すると「なんだ、まだ水じゃないか」ということになります。

これは、見方を変えると「water＝水」とは言えないということでもあります。

実際、お茶の煎れ方などの説明(英文)で、「water」と出てきても「湯」を指していることがあるそうです。

英語を習い始めて間もなく、「brother」は兄でもあり弟でもある、「sister」は姉でもあり妹でもあると知って驚いた経験はどなたにもあると思いますが、「water」は水でもあり湯でもあるわけです。

かつては北入曽にお住まいで、今年1月に亡くなられた吉野弘さんの「I was born」という有名な詩も、英語を学んだ少年の気づきがモチーフになっています。(受動態というちょっと高度な文法的気づきですが…)

教育センター主催の英語サマーキャンプを、今年も夏休みに行います。

体験を通して様々なことに気づき、外国語学習の面白さを感じてもらいたいと願っています。